

# フランス ブルゴーニュ大学

[2018年11月～2018年12月分]

現代政策学部3年 水野生深

皆さん Bonjour。現代政策学部の水野生深です。留学が始まってから四か月ほどが経過しました。11月を過ぎてから、私の住むフランスのディジョンにも冬が訪れています。太陽の出る日が少なくなり、すっかり落葉した木々からも冬の厳しさを感じられます。しかし、自然のもの寂しさとは裏腹に、街の中は以前より暖かさを増しているように感じます。12月に入ると広場には観覧車やメリーゴーランド、大きなクリスマスツリーなどが設置され、大通りではクリスマスマーケットが開かれ、観光客を乗せた大きな馬車も歩き始めます。さらに至る所にイルミネーションが飾り付けられ、ディジョンの街は一気にクリスマスの雰囲気になります。やはりキリスト教が主流の国なので、クリスマスの迎え方は、日本よりも盛大だと思いました。さらに自然を楽しむことが難しい季節だからこそ、食事や読書、寮のストーブを囲みながらの友人たちとの会話、旧市街で聞こえてくるアコーディオンや合唱の音など、様々な文化をより一層楽しむことができると感じました。



### <休日の過ごし方>

前回の留学体験レポートでも触れさせていただきましたが、休日は旅行やパーティを楽しむことが多いです。12月にはバカンス・ド・ノエル(クリスマス休暇)と呼ばれる少し長い休暇もあったため、授業以外にも多くの体験ができました。その中のいくつかを紹介させていただきたいと思います。



まず私がこの冬訪れたのは、ポーランドの首都、ワルシャワという街です。ポーランドはフランスや10月に訪れたスイスなどよりも日本ではあまり知られていませんが、ワルシャワは中心街付近のパステルカラーのカラフルな建物やワジェンキ公園の自然や動物たち、ヴィラヌフ宮殿の豪奢、シヨパン殿やコペルニクス殿のモニュメントなどに彩られたとても美しい街でした。さらにワルシャワでは、城西大学にポーランドから留学生として来ていた友人たちやその友人と再会し、街を案内してくれました。日本から遠く離れた地で再会し、労を忘れ、以前と変わらずともに笑うことができたことは留学生活の中の大切な思い出になりました。

次に、年の瀬にはベルギーのブリュッセルという場所に行きました。ベルギーには公用語が複数ありますが、ブリュッセルではほとんどの人がフランス語を話すので、旅先でフランス語を話す練習をすることもできました。ブリュッセルには世界一美しいと言われるグラン・プラスや本場のチョコレート、ワッフル、幼き日に一目見ることを夢見た小便小僧など、こちらも見どころがたくさんありました。

日本の大晦日にあたる日には、フランス人の友人数人と友人宅で小規模なパーティをしながら新年を迎えました。フランス人も日本と同様に家族で過ごす人もいますが、クリスマスほど家族で過ごすことが重要ではないと聞きました。



### <学校での文化体験>

現在私が通っている学校では、私たち留学生に対していくつかの行事を用意してくれています。ボーンやストラスブール、スイスなどへのバスでの日帰り旅行やフランスの文化を体験することができるイベントもあります。1月上旬にはフランス語のクラスでガレット・デ・ロワというケーキのようなお菓子を食べる行事を体験しました。このケーキの中には小さな人形が入っていて、切り分けられた自分のケーキの中に人形が入っていたらその人は幸運の持ち主ということで、そのケーキについている王冠をかぶり、王様となります。この風習は昔、王宮でも行われていたそうです



冬の冷たい風に吹かれ、春を待ち遠しく思いますが、この寒さが和らぐ頃には日本に帰っていることを考えると少し寂しさも覚えます。1日1日を大切に勉強、文化体験に邁進していく所存でございます。